

受賞作品

【大規模建築部門】

《最優秀賞》

わくらボ

設計者：(株)ヒヤッカ 丸山 晴之

施工者：(株)関組



《優秀賞》

敦賀赤レンガ倉庫

設計者：(協)福井県建築設計監理協会
理事長 佐々木 基之

設計統括：櫻川 幸夫

施工者：(株)あめりか屋・(株)増永組



《優秀賞》

坂井市みくに市民センター

設計者：(有)赤土善蔵アトリエ

一級建築士事務所

赤土 善蔵

施工者：三越建設工業(株)



《奨励賞》

みそ楽(米五のみそ)

設計者：(株)センボー建築事務所 木村 佐和子

施工者：(株)見谷組

《奨励賞》

(株)ウォンツ新社屋

設計者：伊藤瑞貴建築設計事務所 伊藤 瑞貴

施工者：(株)深谷・(株)オーケン特定建設

工事共同企業体

《奨励賞》

福井信用金庫 二の宮支店

設計者：(株)走坂建築設計事務所 水上 諭

施工者：三越建設工業(株)・豊島建設(株)

特定建設工事共同企業体

【中小規模建築部門】

《最優秀賞》

熊川宿若狭美術館

設計者：(株)未来プランニング所

浜岸 吉満

施工者：(株)河合工務店



《優秀賞》

popolo.5

設計者：(有)西川建築設計事務所

西川 国夫

施工者：三光産業(株)



《奨励賞》

池田町営住宅

設計者：haws 建築設計事務所 原田 学

施工者：田中建設(株)

【住宅部門】

《最優秀賞》

鯖江の住宅

設計者：水上哲也建築設計事務所

一級建築士事務所

水上 哲也

施工者：水上建設(株)



《優秀賞》

陣ヶ岡の住宅

設計者：DEMU建築設計事務所

出村 昌也

施工者：山崎建設(株)

(株)ケーシュウ・ワークス



《優秀賞》

いえひさの家

設計者：haws建築設計事務所

原田 学

施工者：サカイ建設不動産(株)



《奨励賞》

竹幸庵囲炉裏

設計者：(株)東畑建築設計事務所 東畑 慎治

施工者：石田建設工業(株)

第6回ふくい建築賞 2019 報告

ふくい建築賞実行委員会
瀬戸川 信之

建築士会・建築士事務所協会・JIA建築家協会の設計3団体が主催し、福井県の建築業界の人材育成を目的に創設された「ふくい建築賞」は、今年度で6回目の開催となります。本年度から作品の応募対象に「中小規模建築」を加え2部門から3部門に拡大しました。6月17日から8月30日までの募集期間に、大規模建築(延べ床面積500㎡以上)部門7点、中小規模建築(同500㎡以下)部門5点、住宅建築部門6点の合計18点(昨年18点)の作品の応募がありました。

今年も県内建築関係10団体の協賛と県・福井市をはじめマスコミ4社の後援をいただきました。心より感謝申し上げます。

9月12日応募書類による一次審査を実施、昨年同様、森 俊偉(としひで)委員長(金沢工業大学名誉教授)、五十嵐啓委員(福井工業大学准教授)、西本雅人委員(福井大学講師)の3名により慎重な審査と評価議論を経て、大規模部門6点、中小規模部門3点、住宅部門4点の計13点が二次審査対象作品に選ばれました。

二次審査は10月11・12日の2日間にわたり審査委員が県内一円の現地を訪れ、直接設計者の説明とヒアリングを行いました。その結果、大規模部門3点、中小部門2点、住宅部門3点を最終審査対象作品に選びました。また「みそ楽(米五のみそ)」「(株)ウオント新小屋」「福井信用金庫二の宮支店」「池田町営住宅」「竹幸庵囲炉裏」の5点を奨励賞に選考しました。

11月16日(土)福井県中小企業大学にて約80人の聴衆が見守る中、公開で最終審査会が開催されました。開催に先立ち、審査委員の五十嵐啓氏より「建築と職能」と題した講演会が行われました。

引き続き、最終審査にノミネートされた8作品の設計者により各15分間のプレゼンテーションと質疑応答を経て熱心な議論と評価が行われた後、審査員による直接投票が行われ、大規模部門では「わくラボ」(14.5点)、中小規模部門では「熊川宿若狭美術館」(13.5点)、住宅部門では「鯖江の住宅」(14.5点)がそれぞれ名誉ある最優秀賞に選出さ



審査風景

れました。また優秀賞に「坂井市みくに市民センター」(13.5点)、「敦賀赤レンガ倉庫」(11.5点)、「popolo.5」(12.5点)、「いえひさの家」(14点)、「陣ヶ岡の住宅」(12.5点)の計5作品が選ばれました()内は獲得点数)。

最優秀作品のうち2つがリノベーション作品となったことは現代の建築需要の反映であり、得点がいずれの部門も僅差となったことは審査委員が悩んだ結果でしょう。どの作品も施主、設計者、施工者の3者が共に作り上げるという情熱が感じられ、「優れた建築」「福井らしい地域性」を解釈し表現していました。会場で見守る参加者の雰囲気も熱く、アンケート結果からも様々なご意見をいただきました。

この建築賞も創設以来6年目を迎えその認知度も上がってきましたが、県民に理解され永く続けていけるよう、皆様のご理解と温かいご支援を心よりお願いします。多くの建築作品の参加こそが「ふくい建築賞」を未来に向けて育てる原動力になると感じております。会員のみなさま、来年度もふくい建築賞への応募を心よりお待ちしております。

尚、過去の受賞作品パネルは今年10月にフェニックスプラザで開催します「建築士事務所協会全国大会 福井大会」の会場でも展示される予定です、お楽しみに。



授賞式記念撮影

■ 第6回ふくい建築賞2019 総評

審査委員長 森 俊偉 (金沢工業大学名誉教授)

私にとって、ふくい建築賞の審査も2年目となりました。今年度、応募作品は広域に渡り、現地審査では東から西、海辺から山里まで移動し、改めて県土全体を見る機会を得ました。各地域の特性をより理解し審査に当たることができ、幸いだったと思っています。また今回、一般建築部門を大規模と中小規模建築部門に分け、施設規模に応じたよりきめ細やかな評価ができるようにもなりました。

各審査過程では、三人の審査員が顔を突き合わせ、十分な議論を繰り返しながら進めました。審査基準に沿っての建築表現の完成度を問いつつ、特に、施設が建つ場所や地域の特性を抽出・理解し建築に適切に反映しているか/プログラム上の前向きな提案や意図があるか/これらを反映しつつ空間構成や表現に提案や意図するものがあるか/施主や施工者のコラボレーションが適切でうまく可動しているか等に、昨年同様、三者共通して関心が払われていたと言えます。

○まず大規模建築部門については施設種別も多岐に渡り、公共・民間を問わず与えられた条件下で様々な工夫と提案が見られ、作品レベルも高く、評価の視点の置き処と優劣の差別化に苦労しました。奨励賞に多くの作品が選出された理由でもあります。

最優秀賞「わくラボ」は、小学校校舎をスタートに用途変換を重ねてきた施設として、処々に記憶を呼び覚ます空間の痕跡が散在し、時の推移とノスタルジーを漂わせる興味深い建築となっていました。粗野な建築材料の使用も建物の経年変化に同調し、併せて現状法規への対処や地域の自然風土への対応等にも積極的な工夫が図られていました。地場の特性を活かしたまちづくりを目指す施設プログラムも好感の持てるものでした。その他、「坂井市みくに市民センター」は、ホールとしての機能と高い性能を発揮できる十分な施設検討と明るく軽快なデザインが施された良作品となっていました。しかし施設プログラムや、地区センターと共有するパブリックスペースがややオーソドックスでもう一工夫がほしいとも感じました。「敦賀レンガ倉庫」は、歴史港湾都市にふさわしいコンバージョンプロジェクトと

なっていました。歴史的建造物を尊重した構造補強策と施工手順への配慮と工夫を十分見て取ることができ、またまちづくりの魅力度アップに寄与できるものと感じました。今後の前庭広場部のさらなる修景整備に期待したいと思います。

○中小規模建築部門は、規模も手頃で、多くのヴァリエーションに富んだ応募があるものと予測しましたが、新設部門のためか応募は意外と少数でした。個々の世界観を表出しやすく、ショップや工房、小オフィス等々時勢を反映した特色ある提案もできやすい部門と言え、より積極的な応募に期待したいと思います。

最優秀賞「熊川宿若狭美術館」は、永年にわたって修景保全されてきた重伝建地区にフィットしたプログラム設定が図られ、内部空間も新・旧の造りとデザイン要素を適度にバランスさせた修景が為されていました。今後、裏庭部についても同様の配慮と修景が図られていくよう期待したいと思います。その他、「popolo.5」は、大野の街並の連なり分断の危惧もありましたが、ショップでL字型に取り囲んだ広場空間は、街中にゆとりと賑わいを効果的に演出する場となっており、地元有志の熱心なまちづくり活動と併せて評価できるものでした。

○住宅建築部門については、応募があった住宅作品はいずれも住い手が明解な価値観と生活スタイルへの考え方をもち、設計者もそれに呼応した住いの空間を生み出すよう努めていると強く感じました。オーナーと設計者・施工者との積極的なコラボレーションは、福井の特徴といえるかも知れません。住宅の在り方として大変望ましいことと思いました。

最優秀賞の「鯖江の住宅」は、周辺環境に対して閉鎖的に過ぎ、開くシステムも組み込んでおくべきではないかとも感じましたが、住い手の価値感や生活スタイルとも同調した緊張感のある内部空間や、様々な工夫を図った構築手法やディテール等、完成度の高い住宅建築となっていました。その他、「いえひさの家」は、ゆったりとのどかな雰囲気漂う住宅地に建ち、広い縁側テラスや大きなガラス開口部を処々に設け、暮らしの情景が周囲に拡散し近隣とのコミュニケーションが増幅される開放的な造りとなっていました。インテリアも使い勝手良く、かつ暖か味のある材質と色彩選択で、住い手家族のほ

のぼのとした生活スタイルとも合致した親しみ感溢れるものでした。「陣ヶ岡の住宅」は、緑多く落ち着いた風情を保持するエリアに立地。敷地が持つ特性を仔細に読み取り、既存雑木林を背景に、前面には自然地形のうねりを活したおおらかな前庭を設け、併せて周りの風景と呼応した心地よいビュー展開を演出する等、ランドスケープと一体化した住いの空間造りが試みられていました。

全体を通して今回特に印象に残った点としては、「わくらボ」等で感じられた時の推移や時の記憶を重ねた空間が生み出す魅力と可能性。「陣ヶ岡の住宅」のランドスケープの取り扱い等で見られた自然

地形・微地形及び近隣環境・微環境との協調の意義と可能性に興味と関心を持ちました。こうした場が保持している記憶や空間特性の顕在化と強化が福井らしさを形成していく上で大切だと思います。今年度も、書類審査、現地審査、公開審査と十分な手順と議論を踏んで行く堅実な審査プロセス、及び熱心な関係者の方々の取り組み姿勢には感心いたしました。こうした賞は継続し実績を重ね、その存在そのものが福井の建築のあるべき姿を示す指針となっていくと言えます。さらなる発展と継続に期待いたします。

■ 第6回ふくい建築賞2019の審査を終えて

審査委員 五十嵐 啓（福井工業大学 准教授）

2019年も引き続き審査員をさせていただき、昨年と同様、審査基準を以下の通りとし応募作品を評価させていただいた。

その建築が地域の暮らしや景観、歴史や文化に対し何らかの積極的な関係性（それが肯定的であっても批判的であっても）を持ったものであるかどうか。その建築で行われる日々の営みに対して、刺激なり歓びなりをもたらしているものかどうか。という2点である。

実施物件として様々な条件をまとめ上げる過程に加えて、上記に挑む姿勢や志をもった作品だからこそ「賞」の名に値するのではないかと考えている。

一般建築部門（大規模）の最優秀となった「わくらボ」は元小学校のリノベーションであるが、わずか100㎡程度しかない外部デッキの増築が秀逸で、現代的な意匠を獲得すると同時に池田町の景観へのアプローチや内部環境の向上、空間の拡張など多角的な視点を見事に具現化している。優秀賞となった「敦賀赤レンガ倉庫」は丁寧に計画された構造補強計画によって有形登録文化財の価値を高め、多くの利用者呼び込む施設によみがえらせた点を高く評価した。同じく優秀賞となった「坂井市みくに市民センター」は坂井市三国支所と中規模ホールの複合施設で、ホール稼働率65%が示す通り利用者動線や使い勝手に対する十分な配慮がされた計画であること、音響や構造計画に高い完成度を求め実現した姿勢を高く評価した。

一般建築部門（中小規模）の最優秀となった「熊川宿若狭美術館」は、国の重要伝統的建造物保存地区に建ち内部のみの改修という制約の中で、木造建築ならではの落ち着いたある小ぶりの空間を立体的に連続させる工夫によって展示室同士にも様々つながりを生み出し、それが拮がりさえ感じさせる美術館を実現できている。優秀賞となった「Popolo. 5」は、道路側に対して大きく広場をとった配置計画とそこに店舗をやさしくつなげる曲線の大屋根が、大野の街中に賑わいとゆとりを創出している。土地の取得から地元の有志の方々が積極的に関わられたとお聞きし、その背景をふくめて高く評価した。

住宅部門の最優秀となった「鯖江の住宅」は、周囲に田んぼが広がる立地にも関わらず、外壁の開口部を極力絞る計画となっており図面審査時には十分な理解ができずにいたが、秀逸な構造計画によって支えられた室内は適度な明るさと空間の融通性を確保しており設計者の力量と施工者の細心の配慮がよく感じられた作品であった。優秀賞の「いえひさの家」と「陣ヶ岡の住宅」は、開放的な立地に素直に反応し、南面に大きな開口部をもつリビングを設け、土間空間の工夫によって住宅内の回遊性ととも緩やかな分断を実現している。福井の子育て世代の理想の住まいを大変高いレベルで実現していると感じた。また、発表された3名の方々のプレゼンテーションは、いずれもわかりやすくかつ興味深い内容を時間内でしっかり伝えられており、十分に準備されたことがうかがえ、表彰式後の施主、施工者との記念撮影をされている姿も含め、今回の審査で

強く印象に残ったシーンであった。

第6回の審査をさせていただく機会を得て、改めて建築の担うべき役割について、また設計者として取り組むべき姿勢について考える時間をいただいた

■ 第6回ふくい建築賞2019 の入賞作品の講評

審査委員 西本 雅人（福井大学 講師）

ふくい建築賞に応募して頂いた設計者・施工者・施主のみなさま、裏方の業務を行なって頂いた実行委員会のみなさま、ありがとうございました。今年で3年目の審査となりますが、年を重ねることに建築を一律に評価することの難しさを感じます。講評では自分が評価した点を中心に述べますが、奨励賞の作品については二次審査で出された意見も合わせて述べさせていただきます。もちろん異論などもあると思いますが、優秀賞を選定する上でどのような点を審査員が気にしたかを知る手がかりにしていただければと思います。

大規模建築の講評

①わくらボ

小学校から民俗資料館に用途変更され、さらに地域産業等支援施設に改修した作品です。もともとの建物が軽量鉄骨・土蔵でつくられており耐震補強ができなかったため、構造遡及にならない範囲で増築を行っています。その増築部分は、池田町に昔からよく見られる「雪囲い」をイメージして作られています。この低コストの中で地域の景観をしっかりと計画に活かしている点は、この設計者の実力を表していると感じました。改修とは思えない効果を引き出していることが最優秀賞につながったと思います。

②坂井市みくに市民センター

坂井市三国支所と文化ホール、そして会議室が複合された施設です。このホールの稼働率は65%と非常に高く、市民に愛されていることが伝わってきました。特に設計者が力をいれて説明されていたホールの計画では、残響時間1.2秒を達成するために、ホールの上部和下部の木材を使い分ける、床材や座席の素材を厳選するなどの細やかな配慮がみられました。多目的な利用とホールの専用化は相反する要望でもあり、両方の要望のバランスをどのように設定するかが多目的ホールの計画の難しさでもあります。加えて複合施設の計画の複雑さも合わせて、こ

と思う。また、審査に至るまでの行き届いた段取りや準備など、事務局を担当された実行委員会の皆さんには本当にお世話になりました。改めて御礼を申し上げます。

これらの計画を個人アトリエでまとめあげた設計者の力量も評価されました。

③敦賀赤レンガ倉庫

明治38年に作られた石油貯蔵用の倉庫を改修した作品です。建物のほかに煉瓦塀も登録有形文化財として登録されており、これらを保存しながら耐震補強することが求められました。しかも支持層は地下20mにあり、屋根をいったん外して重機を入れて杭を打つなど、今回の作品の中でもっとも構造技術が求められていたと思われます。この構造技術の高さが評価されつつも、もともとが倉庫であるがゆえに前面道路に対して閉鎖的であるとの意見も聞かれ、計画の難しさを感じました。

④みそ楽

店舗＋カフェ＋体験教室＋セミナー室が複合された「みそのテーマパーク」を目指して新築された作品です。このお店のコンセプトは素晴らしく、店舗型の体験施設という新しい施設タイプを福井にもたらしてくれたと思います。福井大学の近くにあり個人的にはとても気になっていた作品でもあります。しかし多くの機能があるが、それらをつなぐ吹き抜けが効果的ではないという意見もありました。小規模の建物中で多機能を盛り込んだ分、設計者がデザインできる共有空間が少なかったためと思います。

⑤株式会社ウォンツ新社屋

ホームページの作成からブランディング、ネットショップまでを取り扱う会社の新社屋です。主に事務所機能と配送機能が複合されています。事務所機能ではカフェのようなオフィスとして好きな場所で働けるフリーアドレス式の採用や、既存施設からある小上がりのある食堂（兼ミーティングルーム）など創造的な計画が見られました。一方で配送機能と事務所機能との関係がみられないとの意見も聞かれました。必ずしも両方の機能を関係付けなくても良いとも思いますが、両者の機能がひとつの施設に含まれていますのでその関係性を強調できるともっと良かったのではなかったかと思います。

⑥福井信用金庫二の宮支店

信用金庫の支店を新築した作品です。従来の信用

金庫のもつ堅牢な雰囲気を払拭して、軽快でわかりやすいデザインに仕上げています。加えて、この敷地の地域性から高級感・洗練というイメージを読み取り、市松模様の外壁パネルとして表現しています。外観などのデザイン性の評価は高かったものの、信用金庫の空間構成や行員の執務環境などに対する新しい提案があるとさらに良かったのではないかと思います。

中・小規模建築の講評

①熊川宿若狭美術館

古民家に始まり、倉庫や銀行、酒造などいくつかの用途を経て、美術館に改修された作品です。特に近年までは保存状態も悪く、やや解体された状態を見事に復元したことも評価につながりました。展示機能としても、現代アート、こどもの作品、障害者の作品と3つの異なる作品を展示していることも特徴的です。元々が住宅のため一つ一つの展示室は小さいですが、展示作品の大きさと適して居心地の良いものでした。古民家の再生事例として優れていることが最優秀賞として評価されたと思います。

②popolo.5

Fマートの跡地に新築された複合商業施設です。地元の有志者が集まって出資して計画されてきた経緯が今後の地域復興を考えた際に重要なことであると評価されました。商店街の並びの中にふと空いたポケットパークをL字に囲うように建てられた配置計画は、商店街に奥行き性を与えていると感じました。

③池田町営住宅

単身3世帯、夫婦2世帯のテラスハウスのような集合住宅です。集合住宅の計画を評価する際にはどうしても共用部分がいかに計画されたかを見てしまいます。私的空間の一部を共用化するなどの配慮が見られると評価につながりますが、今回の集合住宅では個別に完結した住宅を集合させるという意味合いが強く、共用空間に対する評価が難しかったと思います。ただ町として住まいを提供していくことが地域の復興につながるという強い意志を感じることができました。

住宅建築の講評

①鯖江の住宅

夫婦と母と猫が住まう住宅作品です。特徴的なのは他の住宅作品に比べて閉鎖的であることです。お施主さんの話の中で、「ずっとこの敷地で育ってい

ていろいろな活動をしている、休む時くらい閉鎖的で過ごしたい」という言葉がとても印象的でした。確かに住宅の内部はあまり外部との接点はないのですが、畑や裏庭は道路に開かれており、敷地内で地域との接点を「オン・オフ」している住まい方が面白いと思いました。また、ディテールがとても綺麗で既成サッシを壁の中を含めるなど、建築的な仕上げのレベルはとても高く、総合的なデザイン力の高さが最優秀賞として評価されました。5年経過したのを機に施主自身で外壁を塗り替えた（それができる住宅だった）ということも個人的に評価した点でした。

②いえひさの家

若い子育て夫婦のための住宅で、とても暖かさを感じる作品でした。施主の抱いているイメージ（雑誌の切り抜きやインスタ）を、うまく設計者のデザインに融合したような仕上がりになっています。特に裏方の家事動線がきちんと整理されていることが印象的で、家事効率はとても高いと思われます。小高い丘に立っており、適度に視線を隠しながら開放的に計画されていることも地域とのつながりを感じさせるものでした。

③陣ヶ丘の住宅

前述の「いえひさの家」と同じような家族像、敷地形態の住宅作品です。異なる点は丘の斜面がもっと急勾配で、道路からの視線が住宅内の視線のレベルから完全に離れている点です。そのため、フェンスなどは特になく、道路面からとても開放的に計画されています。環境性能も特に配慮されていて冬季でも日射だけで暖房を必要としない時期もあるとのことでした。総合的に住まいづくりとして設計者の高い実力を感じた作品でした。

④竹幸庵囲炉裏

古くなった土蔵を囲炉裏として改修した作品です。土蔵が傾いていることから設計の相談があり、設計者から囲炉裏の提案を行ったそうです。囲炉裏を囲みながら地域住民や知人が集まり、そこで宿泊もできる「離れ」としての役割もあります。一方で使用している建材の統一感に疑問を持つ意見も聞かれました。個人的には希薄された地域コミュニティを囲炉裏で盛り上げるライフスタイルはとてもおもしろく感じました。

敦賀赤レンガ倉庫

設計：協同組合 福井県建築設計監理協会
理事長 佐々木 基之
設計総括 櫻川 幸夫 (株)ア一サ
監理：敦賀市都市整備政策課
施工：(南棟) (株)あめりか屋
(北棟) (株)増永組

建築位置：敦賀市金ヶ崎
工期：'14年6月～'15年7月
構造規模：内部鉄骨補強レンガ造
・地上1階（一部2階）
敷地面積：2,685 m²
建築面積：1,158 m²
延べ面積：1,211 m²



みくに市民センター

設計監理：赤土善蔵アトリエ一級建築士事務所
構造担当：オーク構造設計
電気担当：トーフ設計
機械担当：中嶋山元設備設計事務所
舞台関係：浪花千葉音響計画
施工：建築：三越建設工業・竹野建設 特定建設工事共同企業体
電気設備：上野電機・北電機商会 特定建設工事共同企業体
機械設備：三和商会・山田設備 特定建設工事共同企業体
舞台設備：森平舞台機構（舞台総括・舞台機構）
丸茂電機（舞台照明）
ヤマハサウンドシステム（舞台音響）

建築位置：坂井市三国町中央
工期：'16年9月～'17年9月
構造規模：RC造一部S造、地上4階
敷地面積：6,115 m²
建築面積：2,399 m²
延べ面積：2,643 m²



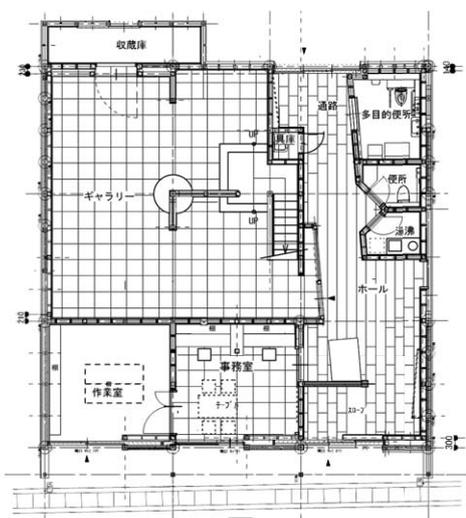


外観写真

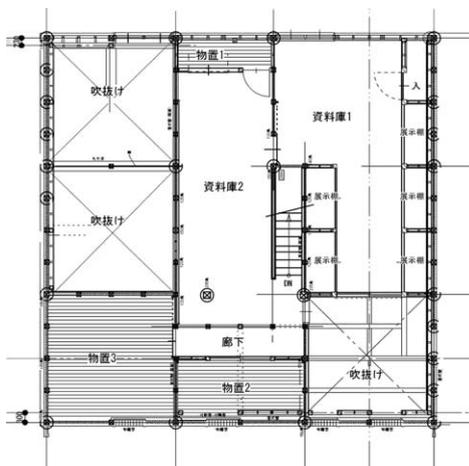
熊川宿若狭美術館

設計監理：(株)未来プランニング
施 工：(株)河合工務店

建築位置：若狭町熊川
工 期：'17年12月～'18年5月
構造規模：木造・地上2階
敷地面積：649㎡
建築面積：157㎡
延べ面積：241㎡



1階 平面図



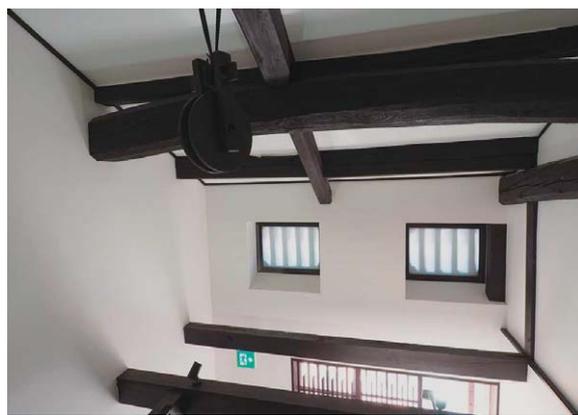
2階 平面図

鯖街道の中心に位置する旧商家をお借りし、子どもや障がい者の方の発表の場(美術館)として用途変更にて改修整備された。

玄関を吹抜けにし、作品の昇降と開放感を、通路を斜めとし奥行きを演出。美術館内は複雑な古材が作品の質を高められるような色彩や見せ方を考慮し設計をまとめた。



2階 資料庫2



吹抜け



1階 ギャラリー (入り口より見る)



クリアな階段

popolo.5

設計監理：(有)西川建築設計事務所
施工：三光産業(株)

建築位置：大野市明倫町
工期：'17年9月～'18年4月
構造規模：鉄骨造・地上1階
敷地面積：1,439㎡
建築面積：451㎡
延べ面積：314㎡



大野市の中心地に位置する五番商店街の旧ショッピングセンター跡地に建設した新たな商業施設です。

北陸の小京都といわれる越前大野市街地には町家型の純和風の建物が立ち並んでいます。その中で、木を利用しながらも、モダン和風の建物とすることで、町並みに馴染みながらも少し雰囲気が異なる、“気になる存在”としました。あえて敷居を少し下げること、日中はこども連れの奥様方、夜は仕事帰りのサラリーマン、休日は家族連れや観光客といった幅広い世代の人々が訪れやすい店舗となりました。





東側立面。県道から既存の生垣越しに見る。右手赤い建物が既存建物の車庫と倉庫。屋根を既存建物の3寸勾配に合わせ、建物中央で1m程度段差をつけてスリットから北側の光を建物内部に取り入れている。



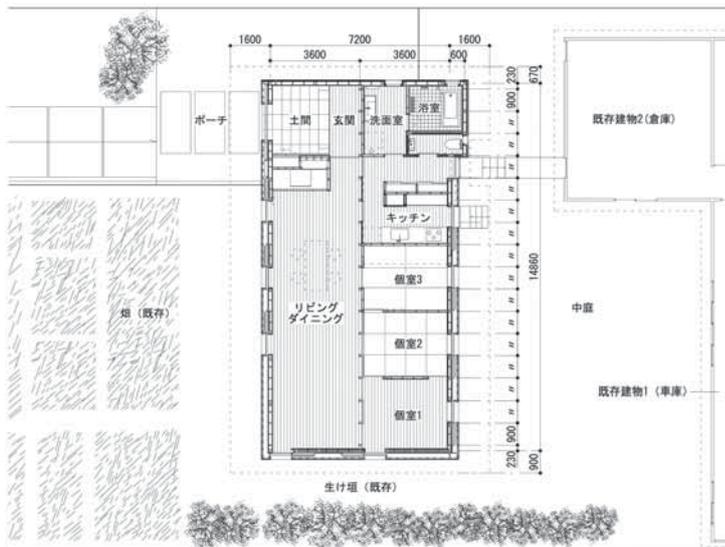
南側立面。外壁は杉板縦張りオイル仕上げ。開口部の既製品引き違いアルミサッシを開け放った様子。田園から吹き抜ける風、交差点の車からの視線に配慮し外壁の中には雨戸、ブラインドが納められている。

鯖江の住宅

設計監理：水上哲也建築設計事務所
施 工：水上建設㈱

建築位置：鯖江市橋立
工 期：'14年3月～'14年10月
構造規模：木造・地上1階
敷地面積：367㎡
建築面積：125㎡
延べ面積：109㎡

田園と山並みが広がる交差点角地に建つ夫婦と母のための木造平屋の住宅。道路からの視線、騒音、通風を考慮した落ち着いた住空間を実現し豊かな周辺環境に連続した建築を目指した。



リビングダイニングを見る

個室2からリビングを見る

キッチンを見る

いえひさの家

設計監理：haws建築設計事務所
施 工：サカイ建設不動産㈱

建築位置：越前市家久
工 期：'18年3月～'18年8月
構造規模：木造・地上2階
敷地面積：687㎡
建築面積：200㎡
延べ面積：225㎡



陣ヶ岡の住宅

設計監理：DEMU建築設計事務所
施 工：山崎建設㈱・㈱ケーシュウ・ワークス

建築位置：坂井市三国町
工 期：'16年4月～'16年10月
構造規模：木造、地上2階
敷地面積：512㎡
建築面積：109㎡
延べ面積：148㎡



【大規模建築部門】奨励賞

みそ楽（米五のみそ）



設計者：(株)センボー建築事務所
木村 佐和子
施工者：(株)見谷組

(株)ウォンツ新社屋



設計者：伊藤瑞貴建築設計事務所
伊藤 瑞貴
施工者：(株)深谷・(株)オーケン特定建設
工事共同企業体

福井信用金庫 二の宮支店



設計者：(株)走坂建築設計事務所
水上 諭
施工者：三越建設工業(株)・豊島建設(株)
特定建設工事共同企業体

【中小規模建築部門】奨励賞

池田町営住宅



設計者：haws建築設計事務所
原田 学
施工者：田中建設(株)

【住宅部門】奨励賞

竹幸庵囲炉裏



設計者：(株)東畑建築設計事務所
東畑 慎治
施工者：石田建設工業(株)